



7月の園だより

令和6年7月1日
目黒区立八雲保育園 園長

～かっぱものがたりエピソード2～

7月の夏空の下、子どもたちが育てている野菜が次々と食べごろを迎えています。ある日、人数報告当番に来た5歳児が「せっかく育てているきゅうりが、だめになっちゃって食べられないんだ」と残念そうに話していました。毎日の水やりを欠かさず、ほんの少しの生長でも見逃さずに観察している野菜に愛着も大きいのでしょう。すると、数日後に「また、かっぱから手紙が来たんだよ」と興奮気味に教えてくれました。『ひさしぶりだね みんなげんきだったかな・・・』というはじまりの手紙の最後には『かれちゃったみたいだから ぶれぜんとするよ だいじにそだててね』とありました。子どもたちとかっぱの出会い、昨年の夏からで「プールで泳いだあとがある」「育てている“きゅうり”をかっぱにも食べさせてあげようよ」と楽しいやりとりがあった夏の終わりには、かっぱからお礼の手紙が来たのでした。「また、来てくれた」と1年ぶりの登場に喜びながら最初に収穫したきゅうりを「食べさせてあげたいね」と話す子どもたちの目はきらきらしています。また新たな物語が始まる予感を感じているのかもしれませんが。

今年は夏の「納涼会」が「やくもまつり」にうまれかわりました。当日は4、5歳児のお店が加わり異年齢で盆踊りを踊ったり「かき氷ください」「お土産ひとつどうぞ」と夏ならではのやりとりを楽しみました。オープニングは恒例の5歳児「手づくりおみこし」で、2基のテーマはみんなで相談した『ジャングル』と『うみ』です。お店の所々には、遠足をきっかけに「小さい友達を楽しませてあげよう」と完成したぞうやきりんが飾られたり、「的当て」にはかっぱも顔を見せていました。体験と想像がふくらむ子どもたちのこの夏はまだまだ続きます。

7月の行事予定

プール開き（3・4・5歳児）
七夕（3・4・5歳児）
身体計測 避難訓練

8月の行事予定

身体計測 避難訓練
プール閉い（3・4・5歳児）

幼児クラス(3・4・5歳児クラス)



～また明日もやろう～

ぺんぎん組は柄の長い大きいシャベルを使うことが嬉しくて「頭までとどく山作りたい」と一生懸命に掘り、途中で山の高さを「おへそまでいった」「もっとがんばるぞ」と何度も背比べをして高くなるのを楽しんでいます。いるか・しろくま組は穴を掘って道を作り、反対側からも道を作り「こっちとこっちをつなげよう」「この道はあっちの方に行くね」といくつも道を作っています。バケツに水を汲んできて「流すよ」と勢いよく流し込むと、あっという間に川のように流れていき、道を作っている途中の子は慌てて歩きながら「水とおにごっこみたい」「こっちはプルプルのチョコの島ができた」と、どろんこあそびならではの楽しい会話が広がります。ぺんぎん組はいるか・しろくま組が深く穴を掘って水を入れて中に入る姿を真似して、穴を掘り「小さいプールだよ」と楽しむようになりました。水と砂の感触を楽しみ、イメージしたことを伝え合いながら、崩れてもまた形にして、水が流れていくのを見てみんなで喜んでいます。「また明日もやろう」となり、友達と一緒に遊ぶ楽しさとなっています。

園庭遊び～泥・砂～たのしいね



めだか組（0歳児クラス）

～お砂をギュッ！～

「お庭に行こう」と声をかけると、庭が大好きな子どもたちは、うれしそうにテラスに向います。砂を触るのもへっちゃらで、保育士が握ったお団子を渡すとギュッと手のひらでつぶしています。「あれ？なくなっちゃったね」と言うと不思議そうに保育士の顔と自分の手のひらを交互に見ています。もう一度「どうぞ」と手のひらに乗せると、嬉しそうな表情で、またギュッとつぶしてにっこり。何度も繰り返して楽しんでいきます。

砂の入ったバケツをひっくり返して空っぽになったバケツの中をジーと見つめ、保育士の真似をしてシャベルで砂をすくって入れてみたりする姿も見られます。様々な発見や面白さを一緒に楽しんでいきたいと思います。



らっこ組（2歳児クラス）

～どろんこ どこいった？～

園庭の地面に水がこぼれ、泥のようになっていました。手を入れて「とろとろだね」「気持ちいい」と混ぜたり泥をかけ手を隠しています。手の平に泥がくっつくことに気づき「まっくろ」と見せ合っていた子どもたち。さらさらの白砂を上からかけている子に「白砂を入れたらどうなるかな」と保育士が聞くと、他の子が「白くなるんじゃない？」と入れ始め、それを見ていた周りの子どもどんどん白砂を入れ始めました。水気がなくなり「あれ？とろとろがなくなっちゃった」と保育士が呟くと「おうちに帰っちゃったんじゃない？」「元に戻ったんだ」と不思議な現象を、楽しそうに話していました。これからも子どもたちが「どうなるのかな」「やってみよう」と試してみる姿を大切にしながら、そこで感じる気づきや発見に共感していきます。

あひる組（1歳児クラス）

～不思議でおもしろいな～

園庭に水を入れたタライを出すと、子どもたちはそれぞれ容器をもってきて水をすくい始めます。すくった水を砂場に持っていきジャーと流し入れると、砂場の一部に泥の水たまりができました。保育士が水たまりの中に裸足で入って「先生の足が見えなくなっちゃった」と言うと子どもたちはフフッと笑って、次々に泥の中に入ってきます。足踏みをしてどろどろとした感触に少し驚きながらも「足、見えなくなったね」と声を掛けると声を出して笑っています。砂場が川のように流れ始めると川に沿って歩いて楽しんでいました。

初めてのことで保育士がきっかけを作ったり、子どもの思いに共感しながら一緒に楽しい経験をたくさんしていきます。

